

第1502回（5月14日）

米の品質別需要と輸入自由化

草 薊 仁

日本の米市場開放の是非をめぐって、これまで米の輸入自由化の影響を推計したいくつかの研究が公表されてきた。これらの試算結果は、概して、米の輸入自由化が国内生産に重大な影響を与えることを予測するものである。この点に関して、Pearson の推計によれば、日本が米の輸入を自由化した場合、日本の国内生産量は33%減少して779万トンとなり、そのときの生産者米価の下落率は66%であることが示されている。また、Pearson の推計結果を批判的に検討した大賀では、国内生産量は74%減少して310万トンとなり、生産者米価の下落率は72%に達すると試算されている。

こうした試算結果は、基本的には内外価格差を調整する需給均衡解に基づくものであり、国産米と輸入米は完全代替財であると仮定されている。したがって、これら試算結果の妥当性は、輸入米に対する国産米の品質競争力に依存するところが大きいであろうと推察される。本報告では、近年における国産米の需要動向を品質別に捉えることによって、品質別需要分析から国産米の品質間代替関係を考察し、需要分析より得られた需要弾力性と、国産米の供給弾力性の値から、輸入自由化の影響を簡単な国内需給均衡モデルによって検討することを課題とした。

分析結果より、米の輸入自由化の影響試算に関して、国産米の品質競争力を考慮すると、Pearson による日本国内の生産減少率は、輸入米の品質が標準価格米クラスであると想定した場合の減少率とほぼ一致する。しかし、その場合の生産者価格下落率は37%程度に留まる。また、大賀による試算結果は、自主流通米クラスの輸入米が相当量輸入されない限り、国内生産量の減少率、生産者価格下落率

ともに過大である。

次に、内外価格比が6倍であると想定した場合の試算結果は、以下のとおりである。

1) 輸入米の品質が標準価格米相当のとき

このクラス以下の米は外食の35.4%、家庭食の16.5%を占める。輸入自由化により、これら全量と特定米穀を除く加工用米需要との合計278.4万トンに加え、政府1・2類米で25.7~34.4万トン(13.9~18.6%)、自主流通米で51.8~60.1万トン(10.0~11.6%)が輸入米と代替し、その結果、特定米穀を除く主食用と加工用需要995.0万トンのうち、355.9~372.9万トン(35.8~37.5%)が輸入米に代替するとみられる。このときの価格下落率は、加工用米と標準価格米が83.8%、政府1・2類米が15.5~27.8%、自主流通米が9.7~19.9%の範囲であり、平均して31.7~39.4%の下落となる。

2) 輸入米の品質が政府1・2類米相当のとき

このクラス以下の米は外食の79.8%、家庭食の31.8%を占める。輸入自由化により、これら全量と特定米穀を除く加工用米需要との合計463.1万トンに加え、自主流通米の90.6~126.3万トン(17.5~24.4%)が輸入米と代替し、その結果、特定米穀を除く主食用と加工用需要995.0万トンのうち、553.7~589.4万トン(55.6~59.2%)が輸入米に代替するとみられる。このときの価格下落率は、加工用米、標準価格米、政府1・2類米が83.8%、自主流通米が20.3~35.1%の範囲であり、平均して50.0~57.9%の下落となる。